

令和5年度 友好都市交流事業

飛島村～南種子町

ロケットロード研修報告書



愛知県海部郡飛島村

本研修のねらい

普段の生活から離れた地域やそこに住む人々との交流を通して、自己の見聞を広げるとともに、異なる文化や社会、価値観を理解・尊重する姿勢を養う。

→ 自分を高める・視野を広げる。

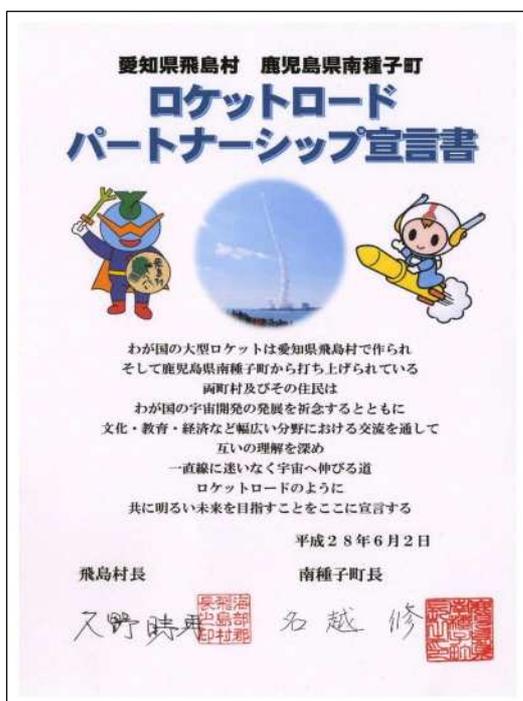
自分が住む地域と異なる地域について知るだけでなく、自分が住んでいる地域を見つめ直し、その良さを再発見させ、ふるさとを愛する心情を育む。

→ 飛島村のよさを再発見する。

地域にかかわる多様な体験を通して、これまで学習してきた知識を深め、自ら課題を見つけ学ぶ楽しさを味わわせる。

→ 学ぶ楽しさを味わってもらう。

飛島村と南種子町との関係



南種子町は鉄砲伝来の地として歴史ある側面をもつ一方で、種子島宇宙センターがあることから、歴史と未来が共存する町といわれています。

そんな南種子町の大型ロケットは、実は飛島村で作られています。そのような関係から、両町村の発展を祈念するとともに、幅広い分野における交流を通して、一直線に迷いなく宇宙へ伸びる道「ロケットロード」のように、共に明るい未来を目指すことを目的として、平成28年に友好都市関係を結びました。

【行程表】

1日目

中央公民館 12:30 中部国際空港 13:30 鹿児島空港 16:00 種子島空港 17:30 島宿HOPE 18:20

2日目

島宿HOPE 8:45 広田遺跡ミュージアム 9:00 千座の岩屋 11:00 昼食(田園) 12:00
種子島宇宙センター 13:15 たねがしま赤米館 16:30 トミー市場 17:50 島宿HOPE 18:10

3日目

島宿HOPE 8:30 鉄砲館 9:20 種子島空港 11:10 鹿児島空港 12:50
昼食(かごしま空港ホテル) 13:20 鹿児島空港 14:20 中部国際空港 17:50 中央公民館 19:00



出発式



広田遺跡ミュージアム見学



広田遺跡ミュージアムにて、
アクセサリー作り



浜田海浜で南種子町の生徒と共に



種子島宇宙センター見学



鉄砲館見学

令和5年6月30日 応募説明会

友好都市交流事業に参加を希望する6年生19名とその保護者が、説明会に参加しました。

参加を希望した全員が参加できるわけではなく、応募審査に合格した10名が派遣団員として選ばれます。飛島村と南種子町の関係性、応募方法や応募してからの流れについて、熱心に説明を聞きました。

令和5年7月14日 面接練習会

応募審査会に向けて、面接の入退室の仕方や受け答えの際の姿勢等について練習を行いました。

初めはどう動けばいいのか分からずおどおどしていましたが、説明を聞き繰り返し練習を行ったことで、最後には全員自信をもって行動できるようになりました。

令和5年7月20日 応募審査会

審査会当日は6人または5人で1組の集団面接を行いました。事前に練習したとはいえ、慣れない面接に緊張していました。どんなことを学びたいか、南種子町の生徒とどう交流したいかなど、しっかり説明できました。

事前に提出した作文と、この日の面接を審査して「友好都市交流派遣団員」が選出されました。

【派遣団員名簿】

伊藤 希生
戸谷 尚美
安井 彩花里

岡島 未来
坂野 くるみ
吉田 陽将

佐藤 結
平野 統也

佐野 颯祐
三宅 理仁

【引率者名簿】

福田 誠 (教育委員会教育課主幹)
近藤 宏徳 (教育委員会生涯教育課主事)

北野 有紀 (教育委員会生涯教育課主事)

【指導教諭】

高羽 舞 (飛島学園教諭)

令和5年9月15日 第1回事前研修

第1回目の事前研修を行いました。

3グループに分かれ、飛島村と南種子町の共通点や違いについて調べ学習を行いました。各グループそれぞれがタブレットを駆使して、資料を作成し、第3回事前研修の発表に向けて準備をしました。



令和5年10月12日 第2回事前研修

団員10名と保護者に行程や持ち物、注意事項等の説明を行いました。

初めて親元を離れる生徒もあり、期待と不安の気持ちを抱えながら、真剣に説明を聞きました。

また、南種子派遣当日に着用するポロシャツの色を派遣団員全員で決めました。

令和5年11月10日 第3回事前研修

1回目の研修で調べてまとめたものをグループごとに発表しました。各グループともに資料が作り込まれていて堂々と発表できました。

また、役割決めや行程・持ち物の最終確認を行いました。



令和5年12月1日 村長表敬訪問

加藤村長を表敬訪問しました。ロケットや歴史などについて学びたい、南種子の人々との交流を図りたいなど、決意を表明しました。加藤村長からは、「楽しみつついろいろな経験をし、成長するきっかけだと思って頑張ってきてほしい」というお話をいただきました。



令和5年12月22日～24日 本研修

いよいよ、待ちに待った本研修です。天候も良く、広田遺跡ミュージアムや千座の岩屋、種子島宇宙センター等、予定通りすべての見学場所を見て回ることができました。広田遺跡ミュージアムでは、ジュニア学芸員として2人の南種子町の生徒にも解説してもらいながらたくさんのお話を学びました。



これが私の学び 研修テーマ「南種子町と飛島村の違いと共通点」

飛島学園6年生 伊藤 希生

【魅力あふれる広田遺跡】



広田遺跡は約1700年前にいた広田人の集落でした。広田人は、その時代の人たちがしていたなかったような貝殻を使ったアクセサリーを身にまとい、おしゃれをしていたそうです。その貝殻は種子島にはない物もありました。飛島村も貿易で日本にない物を輸入しているので、南種子町も飛島村も時代は違えど、物を取り入れ、その時代に合った地域の発展に努めているのは共通点だと思いました。

【神秘的な千座の岩屋】



初めて千座の岩屋を見た私は、自然の中でこんな迫力のある美しいものができるんだとびっくりしました。千座の岩屋からは、海が見えます。そこで飛島村と南種子町は海があるという点で共通点があると思いました。しかし南種子町は砂浜もあり思いっきり遊べる海で、飛島村の海は港として使われています。そこで改めて海にはたくさんの面があると感じ飛島村と南種子町の海の素晴らしさを理解できました。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

南種子町に行き、飛島村との違い、そして共通点について知り、そのことを活かせることができると思いこの研修に応募しました。実際南種子町に行くと、調べただけでは分からなかったことがたくさんありました。たくさんを知り、親元を離れ、自分の成長を感じた充実した3日間だったと思います。ですからこの研修に関わっているすべての人に感謝したいです。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

飛島村には海があります。そして、その海は港でとても大切な役割を果たしているのです。これは飛島村の良い所だと思います。でも、飛島村の海から守るための防災設備はまだ完璧ではないと思います。避難所はあっても、避難所から遠い人は災害からしっかり身を守れるとは限りません。ですから村民全員に何か所持してもらおう物を考えると、より良い飛島村になると思います。

これが私の学び 研修テーマ「百聞は一見にしかず」

飛島学園6年生 岡島 未来

【火縄銃】



フランスやアメリカ等の外国の鉄砲や教科書に載っていた火縄銃が展示してありました。火縄銃は一発ずつしか撃てないと思っていましたが、1回で3発撃てるものや7発撃てるものもありました。実際の火縄銃は想像より重く1,700gありました。

【ロケット発射場】



飛島村で作ったロケットのパーツを専用のコンテナに入れて種子島の「島間港」まで3日かけて運びます。港から発射場まで夜中に5時間かけてトレーラーで運びます。ロケット発射台にある赤と白の鉄塔は、ロケットを雷から守るために避雷針がついています。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

作文は難しかったし面接はドキドキしたけれど、合格通知をもらった時は、「頑張ってたよかったな」と思いました。事前に種子島のことを調べて実際に見たり体験して多くのことを学び、そして新しい友達もできました。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

南種子町には海水浴する場所がたくさんあって海がとても綺麗でした。飛島村には、海があるのに海水浴場がないので海水浴場があるといいなと思いました。飛島村の人でも南種子町の人でも親切な人が多いと思いました。

これが私の学び 研修テーマ「飛島村と南種子町の違い」

飛島学園6年生 佐藤 結

【千座の岩屋】



千座の岩屋とは、太平洋の海水が岩を削ってできた洞窟でとてもきれいな観光スポットです。干潮時には洞窟の中に入ることができます。「千人が座れる」「たたみ千畳」と言われたことが名前の由来です。僕たちは中に入ることができて、とても癒されました。

【トンミー市場】



「トンミー」は島の方言で「友達」を意味します。トンミー市場には、とても大きいブロッコリーや宇宙グッズ等、種子島のお土産がたくさん売っていました。中でも僕が魅力的に思ったのは、種子島産の安納芋のお菓子です。かりんとう、干し芋、芋チップス、芋ようかん等があり、特産品を上手に活かしていると思いました。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

僕は去年の研修報告を聞いてから絶対に種子島に行きたいと思っていました。面接や作文は大変でしたが、自分の意見をはっきりと伝えることができました。南種子町に行って学んだたくさんのことを、他の人たちに伝えたいと思います。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

飛島村も南種子町も緑が多いこと、人が親切なところがとても良いと思いました。違ったのは、南種子町には観光スポットやお土産がたくさんあったことです。飛島村も観光スポットや特産品を使ったお土産をもっと増やしたら良いと思います。たくさんの方が集まる夏のプール等でよく売れると思います。

これが私の学び 研修テーマ「ロケットでつながる飛島村と種子島」

飛島学園6年生 佐野 颯祐

【ロケットの要『エンジン』】



僕はロケットの要であるエンジンの大きさが一番心に残りました。このエンジンを覆うロケットの部品が飛島村にある三菱重工で作られているのは知っていましたか？こんな大きさの部品を使うロケットやそのロケットを運ぶドーリーという車も自分が思っている以上に大きかったです。ぜひ見てください。

【宇宙への玄関口】



次に紹介したいのは宇宙センターのロケット発射台です。この発射台、実は3つあり、今は2つが使用されているらしく、1月に発射されたH-II A48号機はここから発射されました。実際に発射台を近くで見ると、その大きさが実感できました。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

僕は元々ロケットが好きだったので、ずっと種子島に行ってみたいと思っていました。そこで今回の研修に応募して飛島村と種子島の違いを見つけて比べたり、ロケットのことについてたくさん学んだりできました。種子島に行ったことで、さらにロケットへの興味をもつことができました。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

南種子町と飛島村を比べると、飛島村には飲食店とお店がとても少ないと感じました。飛島村に飲食店やお店を増やせば、観光客もたくさん来ると思います。

これが私の学び 研修テーマ「種子島と飛島村の歴史と違い」

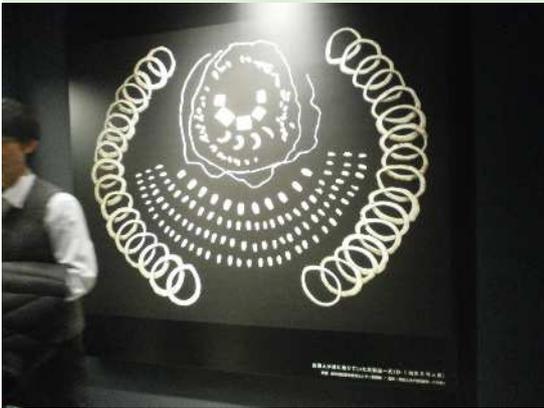
飛島学園6年生 戸谷 尚美

【赤米】



私が南種子町に行って印象に残っているのは、赤米についてです。赤米はとても古い時代から育てられていると知りました。赤米の特徴として、コメがついている部分にひげが生えているということと普通のお米より高さがあるということです。私が一番驚いた特徴は畑でも育てられるということです。赤米とはどういうものなのか、実際に聞いて知ることができました。

【広田遺跡】



広田遺跡では古墳時代から貝殻を使って模様を付けた土器や貝殻で作ったアクセサリー等が展示されていました。貝殻は南の方でしか取れないものもあるらしくその貝でアクセサリーを作り身につけて自分の強さを見せつけていたそうです。種子島の小学校の語り部の方に広田人の特徴や種子島にいた偉い人について説明してもらい種子島の歴史についてたくさん知ることができました。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

私は種子島の研修に参加して、行く前は種子島と飛島村は田んぼがあって、自然豊かなところが共通点だと思っていましたが、どちらにもお互いにはない良いところがあり、そして共通点もたくさんあるということが分かりました。また、勾玉作り等の貴重な経験をたくさんすることができて、良い研修になったと思いました。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

飛島村と南種子町を比べてみると、田んぼや畑がとてもたくさんあっていいと思いました。また、飛島村は工場が多く、いろいろな工業製品を製造していて、港を通して物流の拠点となっており、たくさんの市町村とつながりがあるのがいいと思いました。

これが私の学び 研修テーマ「南種子町の歴史と自然」

飛島学園6年生 坂野 くるみ

【広田遺跡】



広田遺跡は、今から1,700年前～1,300年前の埋葬墓です。90基の墓と158体の人骨、44,000点の貝製品が発見されました。これらの人骨はきれいなアクセサリーを身に着けていたそうです。私も実際に勾玉を作ってみましたが力加減や形を作るのに苦戦しました。きれいでかわいくたくさんの思い出の詰まったアクセサリーになりました。

【千座の岩屋】



千座の岩屋は、太平洋の荒波が作り出した海蝕洞窟です。千人もの人が座れるほど広いことから「千座の岩屋」と言われています。私が行ったときは天気が良くて洞窟から見る海の景色はとてもきれいでした。しかし海から流れてきたゴミが千座の岩屋の隅にあってこのきれいな景色を守るには、私たちの生活を見直す必要があると思いました。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

私はこの種子島の研修に参加したいと1年前から思っていました。作文や面接では自分の考えをまとめるのがすごく難しかったです。面接ではすごく緊張したけど、合格できたことで自身がもてました。そして研修では、親元を離れて自分の力で頑張れるか不安でした。初めての飛行機、初めての南種子町でしたが、仲間と引率の方々と楽しく充実した3日間を過ごすことができよかったです。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

飛島村の良いところは公共施設がたくさんあるところ、田園風景がきれいなところ、南種子町は山、海、植物と自然がたくさんあったところがとても良いと思いました。飛島村と南種子町の良さをそれぞれ見てもらえるように、交流会を増やしたり、現地へ行けるツアーを計画したりすると思いました。

これが私の学び 研修テーマ「南種子のロケットについて」

飛島学園6年生 平野 統也

【ロケットについて】



なぜ南種子町でロケットを打ち上げているのだろうと思いきこのテーマにしました。調べた結果、赤道に近い場所、家から遠い場所等の条件が一番合っていたのがこの南種子町にある宇宙センターだったので。赤道に近いほど自転速度は早くなるため、その力を使ってロケットを宇宙に飛ばしているとのことでした。

【食べ物の特産品について】



南種子町の特産品には、インギー地鶏、安納芋、赤米等があります。そして安納芋は太平洋戦争の時に、インドネシア兵が苗を鹿児島に植えたのが始まりと言われていて、インギー地鶏はイギリスの船を助けたときにお礼にもらった11羽の地鶏が始まりです。その地鶏は世界中の中で南種子町にしかいないと言われていています。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

事前研修では調べても分からないことがたくさんあったけれど、実際に南種子町に行ってみると見学したりガイドさんの話等を通して、ロケットや食べ物の特産品等について詳しく知ることができました。実際に実物を見ることができたのは貴重な体験だと思いました。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

飛島村の良いところは公共施設が整っていて人がみんな優しく自然が多いところです。南種子町は観光地が多いので、飛島村にも増えるといいと思いました。

これが私の学び 研修テーマ「種子島の未来と歴史」

飛島学園6年生 三宅 理仁

【ロケット発射場】



南種子町にあるロケット発射場は、山と海に囲まれていて世界一美しいロケット発射場と言われています。ロケット組立棟では、工場から届いたパーツをクレーンで吊り上げて約1ヶ月半で組み立てられます。そして完成したロケットをタイヤが56本ついた真横にも動けるドーリーという車両を2台使ってロケット発射場まで運びます。2台だけでロケットを運べることに感動しました。

【広田遺跡】



広田遺跡は昭和32～34年に調査され、たくさんの人骨が出土しました。広田人は身長が小さく成人男性で154cm、女性で143cmだそうです。独特な伝統があり、上あごの歯を1本だけ抜いたり、後頭部の形を変えたりしていました。人骨は貝のアクセサリーを身に付けており、その装飾品が約4万4千点見つかりました。広田人の昔の文化から、怖かったりきれいだったりいろいろなことを感じました。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

私の兄が南種子町に行って、私も南種子町に興味がわきました。そして南種子町に行って、知らなかったことをたくさん学びました。飛島村と南種子町の関係、南種子町の歴史、文化のこと等たくさん知りました。南種子町に行ったことで、行く前よりもさらに興味がわきました。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

南種子町は観光地がたくさんあるけれど、飛島村にはないので、作ったほうがもっとよくなると思います。農業と工業が両立しているところや、ロケットを作っているところをアピールしたら良いと思います。ロケットを作っているということで、組み立ててロケットを作るおもちゃ等、宇宙に関するものなどを置いた市場等を作ると良いと思いました。

これが私の学び 研修テーマ「日本の鉄砲の歴史・作り」

飛島学園6年生 安井 彩花里

【日本の鉄砲の歴史】



私は日本の鉄砲の歴史について考えてみたいと思ったので、このテーマにしました。火縄銃がポルトガル人から伝わったことは知っていましたが、外国の銃を見様見真似で作らず、自分たちで工夫して作っていることが分かりました。

【外国と日本の鉄砲の違い】



私は外国と日本の鉄砲の違いについて考えてみたいと思ったので、このテーマにしました。外国の鉄砲の長さは2mくらいあるので、日本の鉄砲は外国の鉄砲より短めだと分かりました。また、外国の鉄砲は、いろいろな種類があり、例えば緩発式、ホイール・ロック式等があることが分かりました。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

説明会の時は、飛島村と種子島はロケットでつながっていることしか知りませんでした。当日までみんなといろいろ調べながら学んだら、たくさんの共通点や違い、種子島の有名なものが分かり、種子島に行くのが楽しみにになりました。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い!」と思ったこと

南種子町と比べてみて飛島村は、ロケット発射場や広田遺跡のような有名なものはありませんが、住民の人がとても優しいのは同じだと思いました。飛島村はお金持ちで有名ですが、それをいろいろと工夫したら、私はより良い飛島村になると思いました。お金持ちだけでなく農業も工夫すれば良いと私は思います。

これが私の学び 研修テーマ「種子島と飛島村の良さ」

飛島学園6年生 吉田 陽将

【千座の岩屋】



最初は海がきれいでびっくりしましたが、洞窟に入ると暗くて細い穴の道が何本もあり、迷子になりそうだなと思いました。「千座の岩屋」は種子島最大の海蝕洞窟で、千人も座れると言われているのでとても広かったです。洞窟内に入ることができるのは干潮の時だけなので、自然が作った不思議な洞窟へ行くという貴重な経験ができました。

【種子島宇宙センター】



ロケットの歴史、種類等の説明がたくさんあり、分かりやすかったです。また実物大の試験モデルを見ることができたり、宇宙ステーションの中にいるような部屋があったりして、楽しく学ぶことができました。ここからロケットが宇宙へ飛び立つところを実際に見てみたいと思いました。

研修全体を振り返ってみて、感じたこと

鉄砲が伝来し歴史に大きく影響を与えた種子島。宇宙開発を行い、未来に大きく影響を与えるかもしれない種子島。そんな種子島に行って自分の目で見て学びたい、そう思い応募しました。10人で協力して過ごした3日間は、驚きと発見にあふれていて楽しかったです。今回の研修で感じた感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいです。

南種子町と比べてみて、飛島村の良いところや「こうなるともっと良い！」と思ったこと

種子島は海がきれいで飛行機から見た夕焼けはとてもきれいでした。飛島村も田畑がたくさんあり、稲が夕焼け色に染まる景色はとてもきれいだと思います。飛島村の良いところは、この自然と人の温かさだと思います。ですから、田畑等の自然を使って人々が交流できるイベントがあるととても活性化すると思います。

発行日：令和6年3月

飛島村～南種子町
ロケットロード研修報告書

●発行：飛島村・飛島村教育委員会